

KINGCA WEEK 2023 感想記

熊本大学大学院消化器外科学

江藤 弘二郎

日本胃癌学会会員の先生方、いつも大変お世話になっております。熊本大学大学院消化器外科学の江藤と申します。この度、日本胃癌学会から助成いただき、KINGCA WEEK 2023 に現地参加・発表をさせていただきました。簡単ではございますが、学会感想記を書かせて頂きます。

今回、KINGCA WEEK は 2023 年 9 月 14 日から 16 日にかけてソウルで行われました。コロナ禍からようやく回復の兆しが見えてきた中で、久しぶりに海外学会に参加できると胸が踊る気持ちで参加させていただきました。私自身、韓国に行くこと自体も初めてでありましたが、まず驚いたこととしては、福岡空港から仁川国際空港まで 1 時間弱で到着したことです。入出国に関しても、コロナが落ち着いてきたこともあり混雑しておりましたが、スムーズに出来ました。九州からこんなにも近いのかと改めて認識いたしました。

14 日早朝に熊本を出て、11 時頃には仁川国際空港に到着してすぐに学会場に向かいました。今回はソウルの中心街、ロッテホテルにて開催されました。大きな会場が 4 カ所、そしてポスター会場という規模でした。日本胃癌学会と比較すると、学会の規模は小さいのですが、その分どの会場も聴衆が多く、とても活気がありました。さらには、欧米や日中韓以外からも東南アジア系からの参加者が多い印象を受けまし

た。どの会場も英語での Discussion が活発で、私より若い先生たちが積極的に質疑応答をしていることも印象的でした。リスニングに関してはある程度理解できましたが、やはりそこからの Discussion、自分の意見を相手に理解してもらうことがやはりとても難しいと改めて感じました。今回、私はポスターセッションで Usefulness of Geriatric-8 Assessment to Predict Postoperative Other Disease Death in Elderly Gastric Cancer Patients というテーマで発表いたしました。高齢者のスクリーニングツールで比較的感受性が高いと言われている Geriatric-8 と胃癌切除後他病死との関連について発表しました。高齢者に対する治療に関しては、韓国でも話題の一つのようで何人かの韓国の Dr と Discussion させて頂きました（写真 1）。

また 2 日目のセッションでは JP Kim Memorial Lecture にて次回国際胃癌学会の Congress President である Prof. Henk H. Hartgrink の lecture を聴講することができました。オランダと韓国の関係性などから始まり、今後の集学的治療、特に NAC の方向性についてわかりやすく教えて頂き、大変勉強になりました（写真 2）。

韓国は集約化が進んでおり、学ぶことが数多くあることを学会の発表を通じて感じました。今回は残念ながら時間の関係で施設見学ができませんでしたが、ぜひ機会を見つけて見学に行きたいと思います。今後もこのように他国の学会に積極的に参加し、国際交流や本邦以外の他国の胃癌診療について学ぶことが引き続き重要になると思います。

最後になりますが、このような機会を頂きました、日本胃癌学会理事長 掛地吉弘先生をはじめ、日本胃癌学会学会会員の先生方・事務局の方にこの場を借りて御礼申し上げます。



(写真 1):ポスター会場



(写真 2) : Prof. Henk H. Hartgrink の lecture